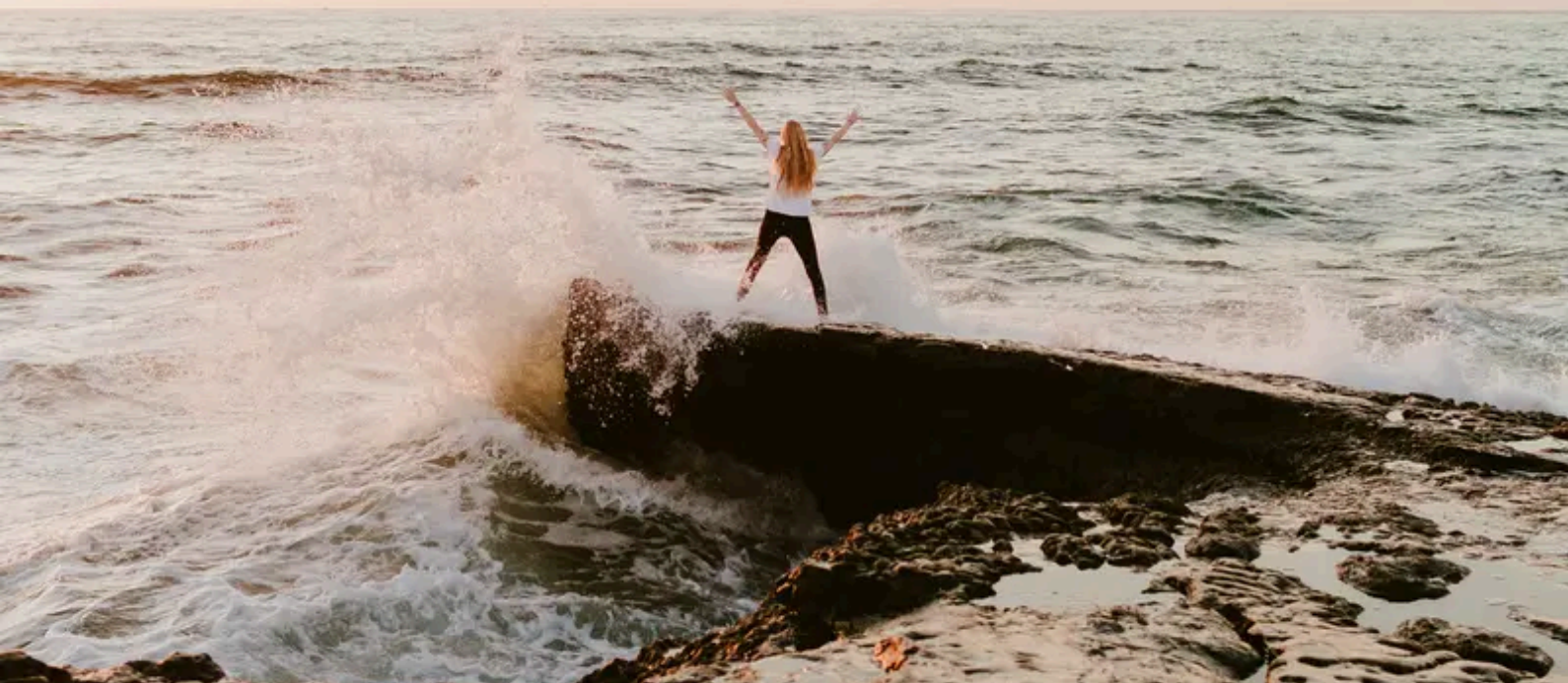




信賴



ティーチング・レター
著者 デレク・プリンス

もし、あなたが自分の国の経済が崩壊しそうだとなんに信じさせることができ、あなたがそのことについて話した人々をみな味方にするのができたとしたら、結果はどうなると思いますか。経済は崩壊してしまうでしょう。それは、私たちの経済には、信頼という一つの重要な基盤があるという単純な理由からです。金融、政治、霊的なことなど、すべて類似したシステムに同じことが当てはまります。信頼が失われれば、大惨事に至ることは確実です。

この学びで、私は信頼に関する3つのテーマを見ていきたい
と思います。神への信頼、私たちの互いに対する信頼、そして、
信頼を捨て去ることに対する警告です。

神への信頼

神への信頼の様々な例を見ていきたいと思います。まず、旧約聖書から、そして新約聖書です。信仰をもってこれらのみことばに近づくなら、あなたの心は神への信頼で満たされると私は信じています。信頼と勝利の素晴らしい音色が、詩篇 27 篇の初めの節で奏でられています。

「主は、私の光、私の救い。だれを私は恐れよう。主は、私のいのちのとりで。だれを私はこわがろう。悪を行う者が私の肉を食らおうと、私に襲いかかったとき、私の仇、私の敵、彼らはつまずき、倒れた。たとい、私に向かって陣営が張られても、私の心は恐れない。たとい、戦いが私に向かって起こっても、それにも、私は動じない。」

生涯を通してのダビデの勝利の秘訣は、彼の並はずれた神への信頼でした。何が起ころうと、敵が彼の肉を食らおうとして向かって来ても、また大軍が戦いを挑もうと、ダビデは主に絶対的な信頼を置いていました。箴言 3:23-26で、もう一つの信頼の美しい様子を見ることができます。

「こうして、あなたは安らかに自分の道を歩み、あなたの足はつまずかない。あなたが横たわるとき、あなたに恐れはない。休むとき、眠りは、ここちよい。にわかにかこる恐怖におびえるな。悪者どもが襲いかかってもおびえるな。主があなたのわきにおられ、あなたの足がわなにかからないように、守ってくださるからだ。」

聖書は、神の民は恐れる必要がないことを一貫して教えています。神の民に恐れを与える教えや預言について私が懸念するのはその理由からです。神がここで言っているのは、「悪者どもが襲いかかっても、問題ない。あなたが不正な者でないなら、あなたは打たれることがない。」ということなのです。26節は、私たちがどこに信頼を見出すかを教えています。「主があなたのわきにおられ、あなたの足がわなにかからないように、守ってくださいるからだ。」主は変わることはありません。常に主導権を取っておられます。決して動揺しません。主は決して予期しない状況や緊急事態に遭うことはありません。主は常に答えを持っておられます。

箴言 14:26 は言っています。「力強い信頼は主を恐れることにあり、子たちの避け所となる。」私たちが神に対して正しい態度を持っているなら、心配する必要はありません。神は、私たちの守りの避け所です。

旧約聖書のイザヤ書は言っています。

「神である主、イスラエルの聖なる方は、こう仰せられる。『立ち返って静かにすれば、あなたがたは救われ、落ち着いて、信頼すれば、あなたがたは力を得る。』しかし、あなたがたは、これを望まなかった。あなたがたは言った。『いや、私たちは馬に乗って逃げよう。』それなら、あなたがたは逃げてみよ。『私たちは早馬に乗って。』それなら、あなたがたの追っ手はなお速い。』(イザヤ 30:15-16)

神は、ご自身の民がみもとに戻って来て、憩いを見出し、信頼を学ぶように呼びかけておられます。静まって落ち着き、信頼するようにと神が語っていることを拒絶する人々は、脱出の計画を気に留めず、そのうちに、自分が問題に圧倒されることを知ることになるでしょう。幾度となく、これはイスラエルの歴史で明らかにされています。神の民が神に従順であったとき、敵は打ち負かされ、イスラエルには平和がありました。しかし、イスラエルが自分たちの力により頼んでいたときは、彼らは打ち負かされ、ついには国々へ散らされました。

新約聖書で「信頼」と訳されているギリシャ語は、非常に強い言葉です。それは特に、発言に対する信頼に関連しています。非宗教的なギリシャ語の用法では、「言論の自由」、あるいは自分の考えを言う権利という意味で、アメリカの憲法によって保障された言論の自由にはほぼ相当します。それは、あなたは自分の信じているものについて黙っている必要はないということを意味しています。あなたは自分の信じているものを言う権利が確かにあり、誰ひとりあなたを黙らせることはできません。それは「権利に関する宣言」のことばです。

新約聖書では、まず、祈りにおける神への信頼を見ていきましょう。

「愛する者たち。もし自分の心に責められなければ、大胆に神の御前に出ることができ、また求めるものは何でも神からいただくことができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行っているからです。」(1ヨハネ 3:21-22)

再度言いますが、あなたの祈りの答えを得るための基本的条件は、「信頼」です。悪魔にあなたの信頼を奪わせないでください。あなたの祈りの権利と願いの自由を用いてください。なぜなら、イエスはあなたのためにそれを買取ったのですから。それが、あなたの中に書かれた律法です。

多くのクリスチャンが直面し、困難を覚えるもう一つの敵の攻撃は、罪責感です。ローマ書 8章は、御霊の生活は罪責感の影のない、自由と解放の生活であることを示しています。もしあなたが、罪責感のもとに生きているなら、ローマ書 8章で言われている生活に入ること、あるいはその人生を歩むことができます。これは、その章の初めで言われている不可欠な条件です。「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。...肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に...」

罪責感は、自由、喜び、平安、聖霊の力への大きな障壁です。しかし、信頼への正しい態度は、それらの人生の障害物に打ち勝つことを可能にさせます。

他の信者への信頼

信頼の2つ目の要素は、私たちの仲間の信者たちです。これは、神に信頼する以上に難しいことであると、おそらく全員が同意するでしょう。

英語で「信頼」と訳されている言葉は、その信頼が神に対するものか、人に対するものかによって、異なるギリシャ語の単語から来ていることは興味深いです。明らかな理由によって、神はご自身に対する信頼と同様の信頼を、仲間の信者に対して持つてほしいと考えてはおられません。しかし、私たちが仲間の信者を信じることを期待しておられます。私たちが他のクリスチャンに対して持つべき姿勢で、原語のギリシャ語にさらに近いのは、「信用」という言葉ですが、英欽定訳では「信頼」を用いています。

今日私たちが感じているのと同様の人間関係の難しさをパウロが経験していたことは、彼の手紙からでも明らかです。コリントの人々は主の食卓で酔っ払い、御霊の賜物を誤って用い、ある男性は自分の父親の妻と暮らし、また経済についての指導を必要としていました。実際、彼らには多くの問題がありました。しかし、パウロがその前の手紙(コリント人への手紙第一)

「あのような手紙を書いたのは、私が行くときには、私に喜びを与えてくれるはずの人たちから悲しみを与えられたくないからでした。それは、私の喜びがあなたがたすべての喜びであることを、あなたがたすべてについて確信しているからです。」(IIコリント 2:3)

人々を信頼する能力は、霊的成熟のしるしであると私は信じます。また、私が人々を信頼するなら、それはその人々のためでもあると信じます。もし、親が自分の子を信頼するなら、その子を向上させることになり、もし親が自分の子を疑い、非難するなら、その子を拒絶し、不安を植えつけることになります。

「私は主にあって、あなたがたが少しも違った考えを持っていないと確信しています。しかし、あなたがたをかき乱す者は、だれであろうと、さばきを受けるのです。」(ガラテヤ 5:10)

ですから、主を自分の確信とする人々に与えられている、箴言 3:23-26の約束の一つ一つを私たちは自分自身に適用できるで

「わたしは自分の道を安らかに歩みます。横たわるときも、恐れることはありません。突如として襲う恐怖をも、悪しき者から来る災いをも、わたしは恐れません。主がわたしの拠り所となつてくださるからです。」

